

インドネシア 泥炭地破壊で世界第 3 位の CO2 排出国に

～ 木材・パームオイル需要と地域経済開発が元凶 ～

泥炭湿地帯での森林伐採、プランテーション開発等による泥炭の分解や森林火災によって排出される大量の二酸化炭素が、インドネシアを世界第 3 位の温室効果ガス排出国に押し上げている。2006 年 11 月、国際湿地保全連合 (Wetland International) が報告した。

東南アジアの湿地地域は、広大な面積の稠密な低地雨林に覆われている。その泥炭層には現在、世界の化石燃料の利用量 100 年分に相当する炭素が蓄積されている。しかし、これらの森林が伐採及び火災により急速に消失している。この破壊の背後には、木材、紙パルプ、パームオイルに対する世界の需要と地域経済開発の促進がある。

泥炭湿地林の伐採を容易にするため湿地の水が排水路を通じて排水され、木材はその排水路から搬出される。大量の水を必要とするパームオイルや製紙用パルププランテーションに排水が使用される。泥炭は通常は水に浸かっており分解しないが、排水を通して泥炭の乾燥・分解が始まり、二酸化炭素を放出する。

更に、泥炭地の乾燥により発生する野火が大規模な森林火災につながり二酸化炭素を放出する。インドネシアでは、これら火災は何週間、ときには何ヵ月も続き、広大な面積の厚い泥炭層を燃やす。また環境団体は、多くの火災の原因は、大規模プランテーション開発のための森林への火入れにあると指摘している。禁止されているこの森林焼き払いは、伐採に比べてはるかに手っ取り早く、安上がりな農場造成・拡張方法だ。



カリマンタン：泥炭地での火災
(c) WETLANDS INTERNATIONAL

インドネシアの泥炭地総面積は約 2 千 250 万 ha である。新たな研究で、近年インドネシアの泥炭地から排出される二酸化炭素は年間 20 億トンに上り、うち 6 億トンは乾燥した泥炭の分解、14 億トンは火災から生じることが分かった。公式統計に基づく二酸化炭素排出量の国別ランクではインドネシアは世界で 21 番目だが、この泥炭地からの排出量を含めると、米国、中国に次いで世界第 3 位となる。この排出量は英国やドイツの排出量の数倍にもなり、京都議定書の下で温室効果ガス排出を削減しようとする先進国のあらゆる努力を帳消しにするという。

インドネシア政府は、最近になって泥炭地回復に乗り出した。泥炭地に関する大統領令によるとスハルト時代に食料生産のために開発された 1 万 2 千 ha の地域の回復を図るといふ。

しかし一方で、世界の健康志向を背景としたパームオイルへの世界的需要拡大とバイオ燃

料ブームによる利益のため、パームオイルプランテーションの大規模拡張計画も打ち出している。開発最優先の姿勢は変わらず、安上がりな拡張のために起きるであろう火入れを取り締まる有効な手立てを一向に打ち出す気配はない。

国際湿地保全連合は、泥炭地保全と回復への投資が気候変動緩和戦略の基本的部分を構成すべきであり、比較的小額の投資で温室効果ガス排出削減に大きな影響を与えることができるばかりか、干ばつと洪水の緩和、生物多様性保全、貧困削減にも役立つと言う。

目先の経済的利益を追うプランテーションの無謀な開発が泥炭地と森林の破壊をますます助長することになりかねない。それを止めることができるのは、木材や紙、パームオイル、エネルギーの消費を減らすとともに、森林地域住民に持続可能な生活手段をもたらすのを助ける国際社会と我々消費国自身の行動だけかもしれない。

この記事は、下記文献を元に FoE Japan が作成した。

引用文献：

1. 国際湿地保全連合 (Wetland International) 資料 “Peatland degradation fuels climate change”

<http://www.wetlands.org/publication.aspx?ID=d67b5c30-2b07-435c-9366-c20aa597839b>

2. 農業情報研究所 (WAPIC) ウェブサイト

<http://www.juno.dti.ne.jp/~tkitaba/earth/climatechange/news/06110601.htm>